

平成30年度

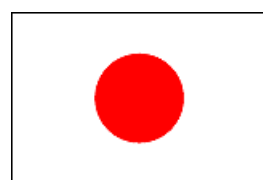
第12回大垣市中学生

ドイツ・シュツットガルト市

研修派遣団



報告書



第12回 大垣市中中学生ドイツ・シュツットガルト市研修派遣団 日程表

派遣期間： 平成30年7月21日（土）～7月28日（土） [8日間]

派遣人数： 11人（引率者3人(団長1人、総務2人)、中学生8人)

	月 日	現地時間	交通機関	日 程
1	7月21日 (土)	5:50 6:00 7:30 9:45 15:00 17:25 18:05 19:00	バス ルフトハンザ航空(LH737) ルフトハンザ航空(LH132) シュツットガルト市手配車	スイピアセンター 文化会館東側ロータリーに集合 大垣市発、中部国際空港へ 中部国際空港着 搭乗手続き等 中部国際空港発 フランクフルト空港着 フランクフルト空港発 シュツットガルト空港着 ケーニギン・シャルロッテ高校へ移動 ホストファミリーとの対面式、その後各家庭へ 【ホームステイ①】
2	7月22日 (日)	終日		各ホストファミリーと過ごす 【ホームステイ②】
3	7月23日 (月)	8:30 12:15 12:30 13:15～15:45 16:30	地下鉄、徒歩	ケーニギン・シャルロッテ高校集合、学校・授業見学 ヴィルヘルマ動物園に移動 昼食(ヴィルヘルマ動物園にて) ヴィルヘルマ動物園見学 解散 【ホームステイ③】
4	7月24日 (火)	7:40 午後 19:00	バス	ノイシュバンシュタイン城へ、見学 ウルム大聖堂見学 解散 【ホームステイ④】
5	7月25日 (水)	8:30 10:30 11:45 12:30 13:45 19:00 21:00	地下鉄、徒歩	ケーニギン・シャルロッテ高校集合、礼拝・終業式見学 シュツットガルト市役所訪問(市表敬訪問)、市内見学 昼食(市役所食堂にて) 市内見学 メルセデスベンツ博物館見学 ホストファミリーとの懇親会 解散 【ホームステイ⑤】
6	7月26日 (木)	8:15 10:30 12:45 14:30 15:30 17:00 18:30	バス ↓	ケーニギン・シャルロッテ高校集合 ホストファミリーとお別れ、ハイデルベルグへ ハイデルベルグ(旧市街、城下町など)見学 昼食 ハイデルベルグ城見学 ハイデルベルグ発 フランクフルト着、ホテルへ 夕食 【ホテル:イビス フランクフルト シティ メッセ泊】
7	7月27日 (金)	10:25 13:55	↓ ルフトハンザ航空(LH736)	ホテル周辺散策 ホテル発 フランクフルト空港発(中部国際空港行) 【機内泊】
8	7月28日 (土)	8:20 11:00	バス	中部国際空港着 入国手続き後、大垣へ スイピアセンター 文化会館東側ロータリーにて解散

平成30年度フレンドリーシティ交流事業

第12回大垣市中学生ドイツ・シュツットガルト市研修派遣事業

団員名簿(学年、五十音順)

派遣期間:平成30年7月21日(土)~7月28日(土)

No.	役名	名前	性別	所属
1	団長	ほった かずひろ 堀田 一浩	男	南中学校 校長
2	総務兼通訳	たかぎ あや 高木 あや	女	星和中学校 教諭
3	総務	くまがい やすひろ 熊谷 康宏	男	(公財)大垣国際交流協会 職員
4	団員	えび いつき 海老 壱喜	男	西中学校 1年
5	団員	かわせ まゆ 河瀬 真由	女	北中学校 2年
6	団員	かわむら みずの 河村 瑞乃	女	東中学校 2年
7	団員	きそ ひめか 木曾 媛香	女	東中学校 2年
8	団員	くわばら こうた 桑原 光汰	男	星和中学校 2年
9	団員	まつふじ はな 松藤 羽南	女	東中学校 2年
10	団員	わたなべ はるき 渡部 明希	女	名古屋国際中学校 2年
11	団員	しばた りな 柴田 理名	女	愛知淑徳中学校 3年



団長

堀田 一浩



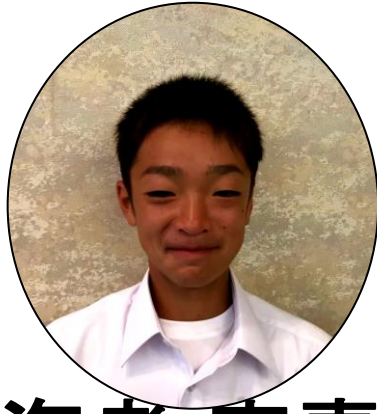
総務兼通訳

高木 あや



総務

熊谷 康宏



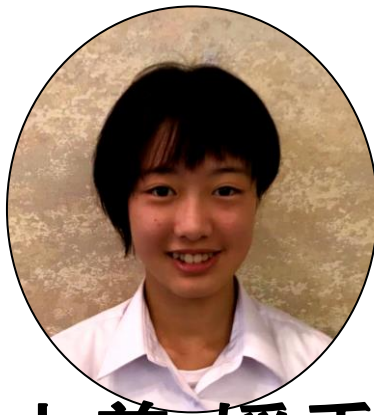
海老 壱喜



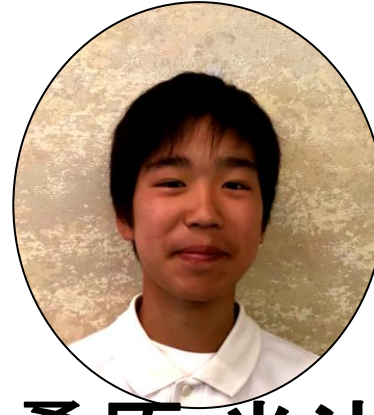
河瀬 真由



河村 瑞乃



木曾 媛香



桑原 光汰



松藤 羽南



渡部 明希



柴田 理名

ドイツ研修で学んだこと

大垣市立南中学校 校長 堀田 一浩

私は今回のドイツ研修では団長という大役を仰せつかりました。研修を終えた今、様々な思いがこの胸に押し寄せています。今回の研修派遣を通して、外国の文化や生活に直に触れることが、その人の人生に大きな影響を与えるということを改めて実感しました。参加した団員たちにとって、ドイツでのホームステイが大変貴重な経験になったことは言うまでもなく、この先の人生における節目では、きっと今回の体験が大きな拠り所となるに違いないと思います。

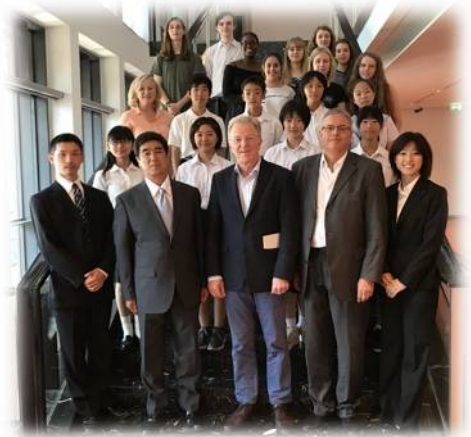
私自身、今回の研修で学ばせていただいたことがたくさんありますが、特に強く感じたことが3つあります。それらについて、その思いを書かせていただきます。

一つめは、ドイツの人々は自国愛に満ち、自分たちの生活を大切にしているということです。ドイツは、日本と同じような歴史をもつ国で、シュツットガルト市内でも今もなおその歴史の一部を垣間見ることができるところがありました。またそれと同時に、伝統と文化が現在にまで多くの人々の努力によって受け継がれてきていることも肌で感じることができました。観光地となっているお城のような名勝だけでなく、市街地や民家、石畳といった日々生活する環境の中にも、伝統と文化の重みを感じさせる雰囲気があります。

そうした環境の中、人々は日常の生活を満喫し、人生を豊かにしています。ちょうど我々が到着した翌日は日曜日で、商店やマーケットは営業していませんでした。休日は休む、働き手にも自分の生活がある、といった感じでした。現在、働き方改革が叫ばれている日本ですが、我々も自分の生活を大切にしているか、自問してみる必要があるのでは、と感じました。

ただ、そんな自分たちの生活を大切にしているドイツの人々でも、日本人の勤勉さや仕事に向かう情熱については高く評してくれています。シュツットガルト市役所を訪問した際に面会した Martin Schairer 副市長さんは、日本を訪問した際に見た様子について、素晴らしい感想をもったことを話してくれました。中でも「ドイツにも日本に負けないくらいの技術はある。しかし手先の器用さやそこにそそぐ集中力では日本人には勝てない」と語られたことが印象的でしたし、日本人として誇らしい瞬間でもありました。

二つめは、ドイツでは、そこに住む人々が責任をもって自覚ある行動をしているということです。日本人である我々からすると、「それで大丈夫なのか」と思うことも多々ありました。例えば、鉄道の駅には改札がなく、電車には車掌もいません。それでも



みんながきちんと切符を買い、電車に乗っています。自転車の持ち込みも犬の同乗もあります。また、商店では買った商品を袋に入れたりシールを貼ったりせず、買ったものを自分の責任で管理しています。所有権がどこにあるのかをそれぞれが理解しているのです。それでいて混乱はありません。日本では、ともすると自己責任だけでは無責任ではないか、と考える向きもあります。しかし、自己責任は無責任ではない。ドイツでの暮らしを体験し感じました。生活に自覚を促す仕組みがあり、そのことによって自立心が育つ。こうした点は日本も見習うべき点ではないかと感じました。

三つめは、今回の研修を支えてくださったクラウディア先生をはじめ、多くの方がこの国際交流事業に熱い情熱を注がれており、それゆえ現在に至るまで、この交流を長く続けることができているということです。我々が大垣市から派遣されてドイツへ赴くことができたのは、大垣国際交流協会という正式な組織があり、そこの方々が研修のすべてを計画してくれたおかげです。しかし聞くところによると、受け入れ側のシュツットガルトには、そうした組織は



なく、受け入れの中心となったケーニギン・シャルロッテ高校のクラウディア先生をはじめ、この交流に意義を感じている方々個々人の努力によって成り立っているとのことでした。日常会話においても十分なコミュニケーションをとれない外国の子どもたちを受け入れることは並大抵のことではありません。しかしそうした困難もいとわず、積極的にこの交流事業を推進している、その情熱に頭が下がる思いです。自国を愛し、また日本をリスペクトし、その懸け橋となるこの交流事業が重要な意味をもっていると確信し、尽力されている関係諸氏に敬意を表します。

最後に、今回の研修で私は改めて、外国へ行き、その土地や生活の様子を自分の目で見て、その国の空気を肌で感じることの大切さを痛感しました。外国を訪れる機会というだけでも有意義ですが、さらに今回の研修のように現地の方々と多くの時間を共有することができたということは、本当に貴重な体験になったと言えます。このような機会を与えていただいた、大垣国際交流協会のみなさま方、並び関係機関のみなさまに深く感謝する次第です。この派遣事業が今後も末永く継続され、大垣市に国際交流の機運がさらに高まっていくことを祈念しています。

伝えたい気持ちが 行動を変える

大垣市立星和中学校 教諭 高木 あや

「ゲーテンモールゲン！」と元気な声が聞こえてきました。声の方を見ると、ホストフレンドと一緒にニコニコしながら登校してくる団員の姿がありました。何やら楽しそうに身振り手振りを交えながら、英語で話をしています。その様子を見て、「遠いドイツまで来て、本当によかったな」と感じました。研修が始まってから3日目の朝のことでした。

「積極的に五感を使って ドイツの文化・生活を知り 国際色豊かな人になろう」というスローガンのもと、団員8名は事前研修から外国語やパフォーマンスの練習に熱心に取り組みました。日本の文化を紹介するためのパフォーマンスでは、映像資料をつくったり、篠笛の演奏をしたりして、自分の得意とする分野で力を発揮しようと思いました。ドイツ語の授業では、先生の後について大きな声でリピートをしたり、習ったばかりのドイツ語を使って、団員同士で挨拶をしたりしました。どの団員の姿からも、この研修を大変楽しみにし、意義のある研修にしたいという気持ちがうかがえました。

いざドイツに到着し、ホストファミリーと対面した時には、緊張や恥ずかしさからか、自己紹介の声が小さくなってしまったり、握手をする時に下を向いてしまったりしました。到着したのが土曜日だったため、次の日は、ホストファミリーと過ごすことになっていました。対面式の姿を見てみると、団員たちがホストファミリーとコミュニケーションをとりながら、一日過ごせられるか、少し心配になりました。



しかし、23日の月曜日の朝、登校してくる団員の表情は、大変明るく、すがすがしいものでした。ホストファミリーと一緒に遊園地に行って、何回もジェットコースターに乗ったことや、夕食にレストランに連れて行ってもらい、大きなピザを食べたことなど、とても楽しそうに話してくれました。楽しい時間を過ごせられた満足感だけでなく、自分の力でホストファミリーとコミュニケーションをとりながら一日過ごせられた達成感が、団員たちのあの表情に表れたのだと思います。

事前研修の外国語練習で、私は、「完璧な英語を話さなくてもよい。伝えたいという気持ちをもって話をすれば、必ず伝わる」と団員に話しました。団員の中には、英語が苦手な生徒もいましたが、「自分の思いを相手に伝えたい」という気持ちで、ホストファミリーとコミュニケーションを図り、一日を過ごせられたことに嬉しさと団員に対し誇らしさを感じました。「伝えたい」という強い思いが、団員の行動を変えたのです。

海外に行くと、日本という国を外から見ることができます。今回ドイツに研修に行き、スローガンにあるように、ドイツの文化や生活を知ることができました。それと同時に、改めて日本という国の文化や生活について考えたのではないのでしょうか。日本の軟水と違い、ドイツの硬水に苦戦したこと、日本人と同じようにドイツ人も時間を守ること、日本のアニメやゲームがとても人気があることなど、実際にドイツに行ったからこそ日本という国について考える機会がもてました。

団員は、この研修を通して一回りも二回りも大きく成長しました。今後は、研修で得たものを周りに還元しながら、どの国の人にも「伝えたい」という気持ちをもってコミュニケーションを図り、自分の国を大切にすると同じように、相手の国の文化や生活も大切にできる一人一人になることを願っています。





研修内容の 紹介



ケーニギン・シャルロッテ高校訪問

大垣市立北中学校2年 河瀬 真由

研修3日目と5日目にケーニギン・シャルロッテ高校を訪問しました。校舎はとても大きく、またとてもカラフルでした。学校には、グラウンドの他にサッカー場、ビーチバレーボールのコート、アスレチックなど日本の学校では見かけないものがたくさんありました。更に、ケーニギン・シャルロッテ高校は、その周辺で唯一の日本語を教える学校です。

研修3日目はケーニギン・シャルロッテ高校の校長先生に学校内を案内してもらい、授業を見学させていただきました。

図書室は、大きくはなかったですが、たくさんの本があり、蔵書が充実していました。中には、「SAMURAI」というタイトルの本もありました。体育館には総勢1000人が入ることのできる大きな観客席がありました。美術室の近くの廊下には生徒の作品が飾られていました。同じ年代の人の作品とは思えないくらい皆さんとても上手でした。

日本語教室には、カタカナ表や羽子板、だるまなどの日本に関するものがあつた他、大垣市の写真が掲示されていました。市内の中学校の写真も掲示されていて、大垣市との交流が長く続いていることに感激しました。また、数学と英語の授業を見学させていただきました。日本の授業とはまったく違い、生徒は私服で先生もジーンズを履いていて、自由な雰囲気です。数学の授業では、間違いを恐れずに、たくさんの方が挙手していました。英語の授業では、出題された問題を周りの人と積極的に話し合い、正解にたどり着こうとしていました。ドイツの学校も、日本の学校と同じぐらい、一生懸命に授業を受けていました。

研修5日目は、学期末の礼拝と終業式を見学させていただきました。まず、ホストフレンド達と一緒に教会まで歩いて移動しました。教会はとても新しく、そしてとても大きかったです。教会のドアを開けると美しいステンドグラスが壁一面に広がっていました。それから、礼拝堂で礼拝をしました。日本の学校には、このような宗教的な行事がある学校は少ないと思うので、とても驚きました。

その後、終業式の見学をしました。終業式は、体育館ではなく、校舎の中にある2階まで吹き抜けになっているイベントスペースのような所で行われました。だから、生徒は校長先生のお話を正面から聞く人もいれば、2階からのぞき込むように見る人もいました。終業式も、授業と同じように自由な雰囲気で行われていました。また終業式は、準備から生徒が主体となって創り上げていました。生徒が主体で会が進められているはずなのに、まるで、大人が会を進めていると思わせるくらい、とてもすてきな会でした。

日本の学校とドイツの学校では異なる所がたくさんありました。しかし、それぞれの良さがあります。私達が見つけたドイツの学校の良さを大垣に住む人々にたくさん広めていきたいです。



ヴィルヘルマ動物園

大垣市立東中学校2年 松藤 羽南

私たちは3日目、高校見学に行ったあとにヴィルヘルマ動物園に行きました。ヴィルヘルマ動物園はすごく広くて、動物の種類も多いです。入口がおしゃれで立派でした。

まず私たちを迎えてくれたのはペンギンたちです。すごく可愛らしくて思わず写真をたくさん撮ってしまいました。動物園の中に入ったらずくに昼食でした。その日はまだ3日目で、お金のことについても食べ物についても知らない私たちは、そこで食べ物のことなどを教えてもらいました。日本とは違って量が多く、1人で



は食べきれなかったのが2人で一緒に食べました。一緒に行ったみんなとも仲良く食べられたし、ホストフレンドとも少しずつ話せるようになってきた頃でした。しかし、お店には2、3匹のハエがいました。私たちは騒いでもしまいましたが、ドイツでは気にしている人が少ないと思いました。ドイツと日本では、日常の中でも違いがあるのだと感じました。



昼食の後はたくさんの動物を見ました。この動物園は、植物や虫などもいる動植物園なので途中で見かける草や

花もとてもきれいでした。動物園はすごく久しぶりで、日本でもよく見かけるコウモリでも、木にぶらさがって体をかいたりしているところをあんなに間近で見たのは初めてでした。

さるも種類はよくわからなかったけど暑さでぐったりして日陰で休んでいる姿をみたら、人間みたいで面白かったです。他にもぞうやキリン、鳥がいました。そのあとにアシカのショーを見ました。アシカが餌をもらうためにたくさん鳴いたり、芸を見せてくれたりしてとても可愛かったです。



次に魚を見ました。種類が多く、大小様々なきれいな色の魚がいました。この魚のエリアだけでもとても広く、迷子になりそうでした。それもそのはずで、ヴィルヘルマ動物園は世界の動物園の中で2位という広さをもっ

ているからです。そして植物園も合わせるとヨーロッパで最大の庭園となるそうです。1,000種類以上の生物が飼育されており、動物園の多いドイツでも歴史が古く、様々な希少動物の繁殖にも成功しているそうです。私が行ったことのある日本の動物園とは違うところがたくさんありました。衛生面や食事の量、動物の種類や飼育の仕方が違ったりしてそこを見つけるのも楽しかったです。

動物たちを見たあとはお土産コーナーに行きました。いろんなものが置いてあってみんな悩みながら、時間ギリギリで買っている人もいました。その日はとても暑かったので、私はアイスクリームを食べて涼みました。仲良くなったホストフレンドと行動し、こんなにも歴史ある広い動物園を見学できたことはすごく貴重なことです。日本との違いも見つけられたし、ドイツについても学び、楽しく見学できて良かったです。

ノイシュバンシュタイン城の存在感

大垣市立西中学校 1年 海老 壱喜

研修4日目に、ノイシュバンシュタイン城に行きました。到着すると、みんなで昼食を摂りました。僕はドイツでソーセージを食べることを楽しみにしていました。僕がオーダーしたソーセージは、とても大きく、想像していたより長いソーセージでした。ポイルしてあるソーセージはとてもおいしく、さっぱりしていました。ノイシュバンシュタイン城を遠くに見ながら食べるソーセージは格別でした。



それからノイシュバンシュタイン城に向かいました。ノイシュバンシュタイン城は山の上の方にあり、坂道を40分ほど登りました。道中はきつかったけれど、周りの景色を見ると緑が広がっていて、空気さえおいしく感じました。坂を登りながら、ホストフレンドや団員と、周りの景色がドイツ語で何と



うかを話しました。流れる水でも、滝や小川は異なる言い方をするなどと聞きました。自然の中で学べるのが楽しく、40分もあつという間に感じました。途中に馬車にたびたび出会いました。馬車を見たのは初めてで、興味があり、乗りたいと思いました。

ノイシュバンシュタイン城のことは、事前に学習をしたので知っていました。ルートヴィヒ2世の趣味で建てられ、ディズニーランドのシンデレラ城のモデルにもなったという城の中はとても美しい装飾がされていると知り、訪れるのを楽しみにしていました。

ノイシュバンシュタイン城に入ると、イヤホンをつけて、この城の歴史などの説明を聞きました。アナウンスは、ドイツ語、英語、日本語など、各国の言葉でされていました。城は外から見てもとても美しく、それだけでワクワクしていましたが、城の中に入ってさらに驚きました。想像していた以上に美しかったからです。城の中には壁画がいくつもありました。壁はもちろん、天井にまで細やかな壁画が描かれていました。あまりに美しいので、城が建てられてから長い時間が経っているとは思えないほどでした。壁画にはルートヴィヒ2世の思いが込められていると感じました。大きなベッドがある部屋は、ベッドの上に飾りがあったり、シャンデリアがあったりして、圧倒されました。城の中は写真撮影ができないので、僕は自分の目に焼き付けておこうと思いました。この城の美しい姿は、ドイツの人たちが大切に保存しようと努力をしているから



保たれているのだと感じ、その努力に頭が下がる思いでした。

城の中の見学の後、ノイシュバンシュタイン城全体が見えるマリエン橋に案内してもらいました。そこから見たノイシュバンシュタイン城はとても迫力があり、立派に見えました。どこから写真を撮っても絵になり、思わず何度もシャッターを切りました。日本の城も力強く、僕は好きなのですが、繊細だけれど堂々としている、存在感のあるノイシュバンシュタイン城もとても好きになりました。



中世ヨーロッパの街並みと表敬訪問

愛知淑徳中学校3年 柴田 理名



賑わうシュツットガルトの街並みをぬけて私達は大きな市庁舎へとやって来ました。想像していたよりも大きく、市役所というよりは教会のような建物にすごく驚きました。中へ入ると扉がなく、動き続けている「パーテルノステル」というエレベーターが待っていました。これに乗ると言われて足がすくんでしまいましたが、ホストフレンドが、「大丈夫」と一緒に乗ってくれました。ドキドキしましたが、楽しかったです。

会議室の中では、市長さんの話を聞いたり、シュツットガルト市のVTRを見たりしました。これを見ていろいろな国、人種の人がシュツットガルトで共に生活しているのを知り、素晴らしいと思いました。また、古いけれどきれいな街並みが多くて、日本との文化の違いを実感できました。

市役所から少し歩くと、シュツットガルトの市内中心部に当たる新宮殿とその宮殿広場へ到着しました。現在は工事中だった新宮殿からは歴史を感じました。新宮殿は18世紀後半、19世紀前半の2度に分けて建てられ、一度は建立するのが難航したそうですが、パリの建築家がベルサイユ宮殿にみられる都市計画を持ち込み、内装が手掛けられました。現在の姿は、第二次世界大戦で破壊された後に復元されたものだそうです。宮殿の屋根の上にはたくさんの像が並んでいました。1つ1つ格好が違ったので見比べるのが楽しかったです。新宮殿の目の前に広がるシュロス広場には大きな噴水があって、たくさんの水が噴き出ていました。多くの人が芝生の上で寝転がったり、踊ったりしていて、とても明るい雰囲気でした。



その後、近くにあるスーパーみたいな所に行きました。野菜やお肉が山積み販売されていて、カラフルで市場のようでした。フルーツティーやワイン、ビールなど、ドイツの特産物もたくさん置かれていました。日本よりも開放的で、スーパーの雰囲気がとても明るく感じました。

新宮殿の向かい側には旧宮殿が建っていました。旧宮殿は13世紀に建てられ、16世紀に入ってルネサンス様式に改装されたそうです。新宮殿に比べると、色合いも作りも質素でした。現在は州立博物館として利用されているそうです。新宮殿と同じく、ここでも馬に乗り、剣を振り上げている男の人の像など、たくさんの像が見られました。

市街地にはたくさんの店が並んでいましたが、1つ見慣れた店がありました。日本でも人気のスターバックスです。店名は同じでもメニューは違い、チーズケーキ味のフラペチーノがありました。



シュツットガルトの街は道路にたくさんの植物があり、地面がとてもきれいな石畳で出来ていて、すごく中世ヨーロッパ的な感じがしました。たくさんの所を見ましたが、ゴミのポイ捨てなどは1つも見ませんでした。これは日本も見習いたいと思いました。

ドイツの素晴らしいところや、日本との違いをたくさん発見することができた表敬訪問、市内見学でした。

あこがれのベンツ

大垣市立東中学校 2年 木曾 媛香

ドイツの街中は素敵な景色が広がっていると共に素敵な自動車がたくさん走っています。日本の車も目にしましたが、タクシー・バス・救急車・ゴミ収集車などまですべてがベンツです。日本では、見慣れない景色だったのでとても感動しました。



今回、メルセデスベンツ博物館を見学することが出来ました。私は将来ベンツに乗ることが夢です。こうしてベンツの歴史に触れる機会がもてたことがとても嬉しく思います。

外観は、さすが高級車！と思わせるようなおしゃれな作りでした。建物の中は、1階から8階まであり、8階には昔使われていた人力車のような形の車が置かれていて、それが車のはじまりなんだと分かりました。エレベーターに乗って下に行くほど、今の車の形に向かって進化していき、サイドミラーが付くようになり、天井が付くようになりしていきました。同じ人間が造り出したとは思えないくらい時代の流れを感じました。

私が特に好きだった階は4階です。ダイアナ妃の愛車が鮮やかな色で目に留まり、印象に残りました。また、上の階よりも技術が進んで安全性も重視したフォルムでした。特に昔と違うのはボディのかたさで、事故などにあっても中にいる人を守れるように頑丈にできていました。

外車はボディが堅いそうですが、ベンツはこの時からだったことが分かりました。

すべての階の車の展示の仕方が工夫されていて、躍動感あふれる角度・置き方がしてあり、どれ一つ隠れることなくすべての車が生き生きとしていました。



この博物館からベンツは様々な年代から愛され、色々な用途で活躍していることが分かりました。

私は、ベンツのエンブレムについてずっと気になっていました。その形は、合併前のダイムラー社が使用していたスリーポイントド・スターとベンツ社の円形月桂冠とを併せデザインされたもので、3点にはそれぞれ「陸・海・空」の各分野で当社の繁栄が込められているそうです。日本に初上陸したのは、大正時代で天皇などの皇室の方が乗るためにあったのだそうです。しかし今では、高貴な方だけでなく一般の人でも乗る事が出来るようになりベンツが身近になったことを感じました。これらのことを踏まえて考えると、ベンツの自慢は安全性だと思います。中に乗っている人は、必ず安心して運転できると思うので私は安全で格好いいベンツに乗りたいという気持ちが以前よりも強くなりました。これから先もきっと想像がつかないような進化をしていくと思います。

私が乗るときには、もっと発展したものに乗ることができると思うと、ベンツの未来が楽しみです。

～ホストファミリーとの懇親会～

大垣市立東中学校2年 河村 瑞乃

ホストファミリーとの懇親会は、自分たちの日本についてのパフォーマンスを披露するところです。私達はPR動画、書道、篠笛、茶道、かるたをしました。事前研修で何回も練習をやってきたけど、練習と本番では雰囲気違って緊張しました。ホストファミリーの人たちが困ったりしていたときは、桑原さんの進行で順調に進めることができました。

渡部さんのつくったPR動画では、大垣の良さが伝わるように名物などを紹介しました。水まんじゅうの紹介では、水の音をつけてみたり大垣の位置がわかるように世界からどんどん拡大してい



って大垣にくるようにして観ている人が楽しめられるような動画をつくりました。私と海老さんがやった書道では、行書と楷書の2種類で「花」を書きました。緊張した空気の中でも失敗せずにやりきることができました。また、書道の楽しさを伝えられるような字が書けました。木曾さんと松藤さんの弾いた篠笛では、「たこたこあがれ」や「ほたるこい」を演奏しました。とても日本らしい音でした。篠笛は、書道や茶道のときにバックミュージックとして演奏しました。河瀬さんと柴田さんのやった茶道は

抹茶を飲みたい人がでてきて茶道を体験しました。飲む前の手順などを英語で書いて説明しました。作り立ての抹茶は熱くて持てないことがあったけどとてもおいしそうでした。桑原さんと渡辺さんの進行で行ったかるたでは、英語で書いた読み札を読んで絵札をとりました。これも体験したい人を混ぜて一緒に行いました。3チームにわかれて一番多くとった人が勝者でお菓子がもらえるルールにしました。ドイツの人は、はじめてやるのでルールがわからなかったけどどんどん進めていくうちにわかってきてとても盛り上がることができました。私のチームだけでなくかるたをやっている様子を見ていたら、ホストファミリーの人たちは、上手にできていて楽しそうにやっていたうれしかったです。食べ物の絵札だけ取る人もいたりして、とても盛り上がることもできたので、また一緒にやりたいです。

パフォーマンスが終わったら、ホストファミリーと話したり、写真を撮ったり、ホストファミリーと最後の時間を過ごしました。河瀬さんや柴田さんが茶道を体験したい人に説明やお茶をたてたりしました。懇親会では、ホストファミリーとの絆を深めることができました。日本の文化や大垣の紹介をして日本や大垣について知ってもらうことができました。家に帰ったとき、私のホストマザーが「日本の文化はきれいですね。」と言ってくれました。日本について理解してもらえてうれしかったです。また、私たちもドイツのことを知れたのでこれを家族や友達、大垣の人たちに伝えていきたいと思います。



ハイデルベルクの街

大垣市立星和中学校 2年 桑原 光汰

6日目の7月26日は、ホストファミリーと別れた後、バスでハイデルベルクへ行きました。年間300万人が訪れるこの街は、日本と違い、屋根と壁の色が統一され、バスの中から見た街並みの美しさは最高でした。美しい街並みを見ると、昔から平和が続いているように感じますが、大きな争いによって街が壊されたこともあるそうです。この街は、シュツットガルトともフランクフルトとも違う、中世のヨーロッパという感じの街でした。日本では見たことのない雰囲気です。しかし、美しさとは裏腹に、ハイデルベルクはドイツの中でも治安が悪いそうです。僕たちが被害にあうことはありませんでしたが、日本のように安心して歩くことはできず、常にソワソワしながら歩かなければいけませんでした。



最初に訪れたのは、ハイデルベルク城です。この城は、プファルツ継承戦争でフランスによって何度も破壊されました。その場しのぎの修復しか行えないままだった城に、1764年、稲妻が2度立て続けに落ちました。今でも破壊された部分はそのままでの形で遺っています。日本では、被害にあうと、すぐに修復することが一般的なため、破壊された部分が残っているのは不思議な感じでした。



古いだけでなく、何か人を惹きつけるような魅力がある城は、外観がとても美しいだけでなく、中にも驚くものがありました。それは見たことのない大きさ、世界最大の木製の「たる」です。その「たる」は直径7メートル、長さ8.5メートル、中には22万1726リットルのワインが入るそうです。ですが実際にいっぱいまでワインを入れたのは3回だけで、その味もあまりよくはなかったそうです。権力の大きさを示したかったのかなと思いました。

また、ハイデルベルクは学生の街です。人口が約14万人に対して、約2万5千人が学生です。これは約18%が学生ということになります。日本で学生の街というと、京都と言われます。京都府の人口は約260万人、学生は約14万人で、約5.4%です。これを比べるとハイデルベルクの学生の割合がいかに高いかがよく分かります。

旧市街には昔からある建物が多くあり、とてもワクワクしました。古い街並みの中にあるハイデルベルク大学は1386年創立でドイツ最古の大学です。ドイツの中でもトップ5に入っており、特に医療系に力を入れているそうです。1990年に京都大学と大学間学術交流協定を結んでから、様々な分野で共同活動に取り組んでいるそうです。周りの街並みとも調和した重厚な感じの建物でした。

有名な筆記具の会社「LAMY」の本社もありました。1930年設立の古い会社です。僕はシャープペンシルが好きなので少し高価でしたが、2本のシャープペンシルを買いました。太めでブラックの物と、細めでシルバーの物です。書き味がなめらかでとても使いやすいです。大切に使っています。

ハイデルベルクの美しい街並みはここでしか見ることができません。実際に街を見て歩く貴重な体験をすることができ、本当によかったです。またいつか機会があれば、もう一度訪れたい街です。

